

国語

第6学年

育成を目指す資質・能力 【思考力・判断力・表現力】

単元名

投書で発信！自分の思いを伝えたい！ 「新聞の投書を読み比べよう」

【単元の概要】

地域の防災行事へのスタッフ募集の依頼を受け、自分たちが地域から頼られているという喜びや地域の取組を広く伝えたいという思いを抱きます。その思いを伝える方法として投書に出合わせ、その書き方を教科書や地域の投稿経験者、新聞社の方から学び、自分の意見を説得の工夫を取り入れて書くという単元のねらいを身に付けていきます。

学習指導要領における領域・内容

B書くこと ウ

C読むこと イ

他教科等との関連

総合的な学習の時間

◆単元の目標

新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報を基に、四つの投書を構成や理由付けの仕方、根拠の挙げ方について比較したり関係付けたりしながら読み比べることで、自分の意見に説得力をもたせるための説得の工夫はどの手法が効果的かを考え、理由や根拠を明確にして自分の意見を書く力を育てる。

◆単元の展開（全12時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の設定①（1）</p> <p>地域の防災の取組について、どのような方法で紹介するとよいか話し合う。</p> <p>投書を書くというゴールに向かう学習計画を立てる。</p>	<p>○総合的な学習の時間で取り組んだ防災キャンプについて、もっとたくさんの人に紹介したいな。</p> <p>○各地でいろいろな災害が起きている今、地域の活動や地域の人々の防災に対する思いをたくさんの人に伝えたいな。</p> <p>○たくさんの人に伝えるためにはどのような方法が効果的かな。</p> <p>○新聞の投書はどうか。新聞に載ればたくさんの人が読むから、ぼくたちの伝えたいことが広く伝わるね。</p> <p>「投書という表現方法を使って伝えたいという思いになってくる。」</p> <p>○書こう書こう！でも、投書ってどうやって書くのかな。</p> <p>○自分の考えを書くということは分かるけど、それだけで伝わるかな。</p> <p>○まず、書き方についての学習が必要だ。教科書に投書の学習が載っていたよ。</p> <p>○読み手に防災活動の大切さを伝えるためには、どんな工夫ができるかな。</p> <p>○地域の人で投書欄に載った人はいないかな。そういえば、去年の6年生は新聞社の出前授業をしていたよ。</p> <p>「投書を書くためには、どんなことを、どのような方法をもとにして学ぶことが考えられるか、課題解決に向けた意識が高まってくる。」</p>	<p>【総合的な学習の時間】地域の防災キャンプが自校で開催されることを知り、自分たちもスタッフとして協力したことやその中で知った、地域の人々の防災に対する思いを想起させる。</p> <p>■投書については、様々な年齢層やテーマ、また複数の新聞社のものを紹介する。</p> <p>■ある投書に対して書いた投書などつながりのあるものも掲示し、投書のもつ魅力や効力についても紹介しておく。</p> <p>■実際に複数の新聞の投書を比べて読み、書き方の工夫について気付いたことを話し合うことを通して、投書を書きたいという意欲と自分たちの知識・技能とのズレを感じ、投書の書き方を知るといふ本単元の学びの必要性に気付かせらる。</p>
<p>投書で発信！自分の思いを伝えよう！</p>		
<p>読み手を説得するために投書の書き方を身に付けよう！</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集①（２）		
<p>教材文「新聞の投書を読み比べよう」の四つの投書を読み比べ、それぞれの書き手の意見や主張とその理由や根拠を捉える。</p>	<p>○どの投書も同じ段落構成だけど、理由や根拠がちがっているね。</p>	<p>■四つの投書を読み比べ、4人の書き手が、読み手を説得するために理由付けの仕方や根拠の挙げ方を工夫していることに気付かせる。</p> <p>■教科書の投書の拡大コピーに、段落ごとに色分けをして囲むことで、視覚的に四つの投書の文章構成が同じであることに気付かせる。</p>
<p>投書を読み、それぞれの書き手が読み手を説得するために工夫していることを読み取る。</p>	<p>○どの投書も読み手を説得する工夫があっておもしろいな。ぼくの意見を伝えるためには、四つの工夫のうち、どれを使えば、説得力が増すのかな。</p>	
	<p>説得の工夫について知り、それぞれに特徴があり、どの手法を使って投書を書くのかという課題への意識が高まってくる。</p>	
整理・分析①，振り返り①（３）		
<p>読み手を説得するために、効果的な理由や根拠を考えて投書の構成メモを書き、グループで意見交換する。</p>	<p>○私は防災キャンプの取組のよさを伝えるために、自主防災組織の会長さんの言葉を引用しようと思っていました。でも友達と意見交流してみると、実際に自分が防災キャンプで経験したことを書く方が説得力が増すように思えてきました。</p>	<p>■説得力を増す投書にするために書いた構成メモについて、他者との意見交換することを通して、自分の意見を広げたり、説得の工夫について多面的・多角的に見て自分の考えを深めたりすることができるようにする。</p>
<p>修正した構成メモを基に投書を書く。</p>	<p>作品や友達との対話を通して、自分の学びの深まりを実感できるようになり、投書を書くという思いがさらに高まってくる。</p>	
<p>書いた投書を推敲する。</p>	<p>○私の投書が新聞に載ったら、自分の意見をたくさんの方に伝えることができるね。新聞社の方はどんな書き方をした投書に説得力を感じたのかを聞きたいな。 ○実際に新聞に載っている投書の説得の工夫はどんなものがあるのかなあ。新聞社の方に話を聞きたいな。</p>	<p>■新聞の投書欄は不特定多数が読むものであり、さまざまな説得のための表現の工夫を駆使して文章をつくり上げない限り読み手を説得することはできないことを児童に投げかける。</p> <p>■説得の工夫を取り入れた投書を書き、実際に新聞社に投稿し掲載を目指すために、どんな学びが必要かを考え、自由に交流することを通して、「投書についてもっと知りたい、専門家の意見を聞きたい。」という声を引き出す。</p>
課題の設定②（１）		
<p>ゲストティーチャー（新聞社の投書担当であった地域の方）の話を聞き、現時点の投書を見直す際の留意点について考える。</p>	<p>○いろいろな人の意見を聞くことは、大事だね。 ○いろいろな経験を通じて、12歳のぼくたちから見た防災をどう書いていくかをしっかり考えるぞ。 ○投書に書く内容は、説得の工夫を取り入れて書くことはもちろん、それを踏まえて自分の意見を書く、つまり、自分はどうか考えるかを書くことが大切なんだね。</p>	<p>■新聞社の投書担当であった地域の方に、投稿された作品を選ぶ際のエピソード等を語っていただくことを通して、現時点の投書の内容では掲載される可能性は低いことを伝えてもらう。</p> <p>■自分の意見をより明確にし、説得力のある理由や根拠が必要であることを確認する。</p>
	<p>自分の投書を見直して、新聞に掲載されるように書き直したいという意欲が高まってくる。</p>	
<p>自分の意見をより明確にして、説得力のある理由や根拠を挙げて、投書を書き直そう。</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集②、整理・分析②（２）		
<p>投書を書く際のポイントや留意点に関わる情報を収集する。</p> <p>自分の主張と文章構成を考え、説得の工夫を取り入れて下書きを書いた後、原稿用紙に清書する。</p>	<p>○地域の防災の取組についての自分の考えを、根拠を明確にしてまとめよう。</p> <p>○読み手を説得するために、ほくは、地域の自主防災組織の会長さんの言葉を引用するから、総合的な学習の時間でインタビューした内容を要約して取り入れるよ。</p>	<p>■自分の投書の内容と読み取った説得の工夫をつなげさせる。</p> <p>【総合的な学習の時間】防災活動の学習の際に、地域の方にインタビューした内容を想起させる。</p>
まとめ・創造・表現（２）		
<p>書いた投書を読み合い、助言を受け、投書を仕上げる。</p>	<p>○読み手を説得するために、防災キャンプに参加した経験だけでなく、そこに参加した地域の方々にインタビューした内容を入れてみたらどうかというアドバイスを基に書き直したよ。</p> <p>○学習の初めに書いた投書と比べてみると、地域の防災の取組のよさや工夫について自分の思いが伝わる投書になったよ。</p> <p>○みんなはどんな投書を書いているのかな。早く読んでみたいな。</p> <p>友達の投書を読んだり、友達とアドバイスをし合ったりすることを通して、説得の工夫を取り入れ、自分の意見としての投書に書くというねらいの達成を実感できるようになってくる。</p>	<p>■各自の投書を、期間を定めて教室内に掲示し、国語の時間だけでなく、朝の会や休憩時間等を活用し、気付きを書いた付箋を貼ることができるようにしておく。付箋に記名させることにより、個人的に詳しくアドバイスを聞きに行くことができるようにする。</p> <p>■友達と投書を読み合い、気付いたことや考えたことを交流する場面を設定する。</p>
振り返り②（１）		
<p>本単元の学びを振り返り、自己の学び方や資質・能力の変容、またこの学びをこれからどのようににつなげていくかを考える。</p>	<p>○この学習を通して、読み比べて学んだ説得の工夫を使って、自分の考えを明確にしながら、投書を書きたい、地域の防災の取組について自分の思いを伝えたいという気持ちをもち続けることができました。</p> <p>○私は今まで投書を読んだことがなかったけれど、効果的な説得の工夫を取り入れながら、自分の意見を投書にしてまとめることができ、とてもうれしいです。</p> <p>○どうやったら読み手を説得できるか、効果的な表現の工夫についてグループで積極的に自分の意見を出し合い、考えを深めることが心に残っています。この学びを他の場面や他の教科の学びにつなげたいです。</p> <p>本単元の学びを通して、どのような変容が見られたかを実感するとともに、この学びを国語科だけでなく他教科や生活にどのように活かしていくかを考え続けようとしている。</p>	<p>■投書を書くという学びを通しての自分の考え方の広がりや深まりなどの変容を交流し、振り返りにつなげることができるようにする。</p> <p>■自分の学びの広がりや深まりをメタ認知させるため、本単元で育成したい資質・能力の【思考力・判断力・表現力】と主体的・対話的な学びの２つの側面から単元での学びを振り返ることができるようにする。</p>

【児童生徒の変容】

児童は、新聞の投書やコラムを読む経験が少なく、投書を書くためにはどうしたらよいか具体的にイメージできなかったが、四つの投書を比べて読み、共通点や相違点を考えることを通して、読み手を説得するための工夫について整理し、その工夫を活用して、全員が投書を書くことができた。また、ゲストティーチャーの話聞くことで、新たな課題が生まれ、地域の防災の取組を投書で広く伝えたいという学習のゴールに向かい、情報収集や交流場面で主体的・対話的な学びを実現させることができた。単元を通して学んだことを基に、根拠を明確にしながら自分の思いをまとめたり、友達の投書に対して助言をしたりする姿から、育成すべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力」が高まったと捉えている。